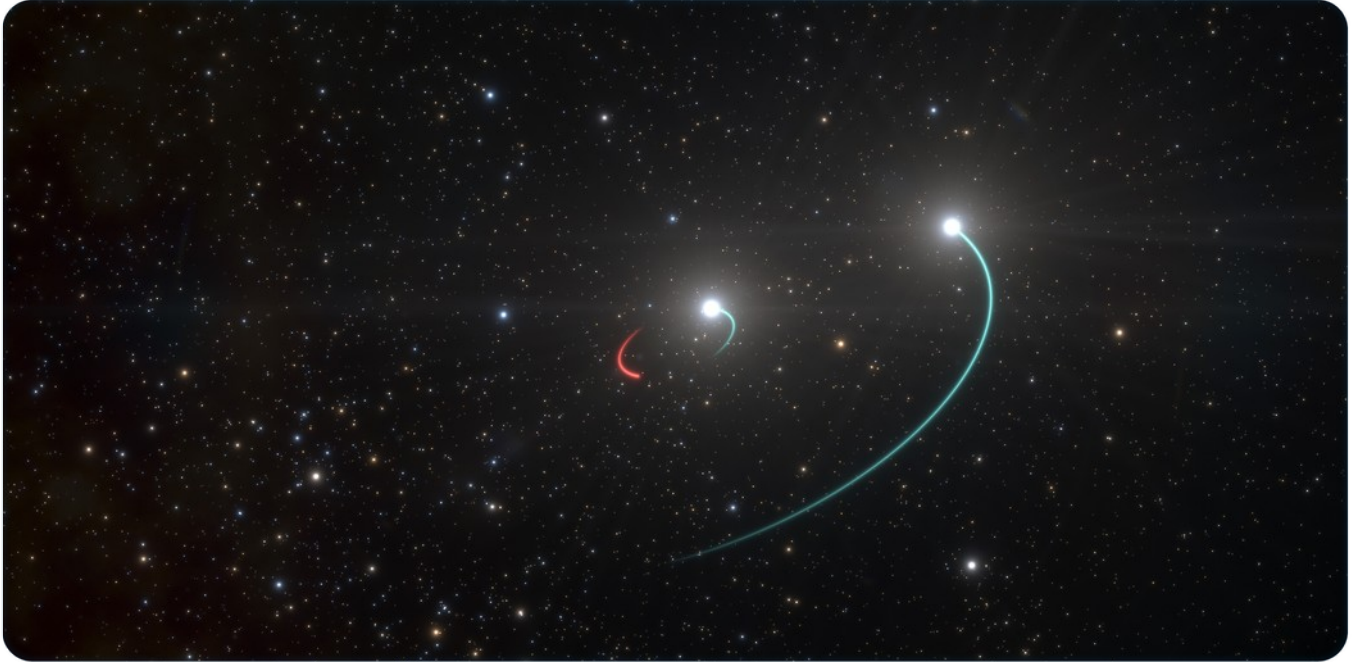




## 星のワルツ



太陽系に近い、ある恒星（こうせい）系で、3つの天体がユニークなダンスをしています。星2つがブラックホールといっしょにワルツをおどっているのです。そしてそのブラックホールは、今わかっている、地球に一番近いブラックホールでもあるのです。

この特別なダンス、実は1つの恒星のそばにブラックホールがあったのです。そのため、その恒星とブラックホールはたがいにくるくる周って、40日ごとに一周しています。そして3つめの星、とても明るい恒星が、内側のペアからだいぶはなれた外側をまわっています。

この恒星系についての一番のおどろきは、私たちにとっても近いということです。実際この恒星系のブラックホールは、わかっている限り一番地球に近いブラックホールです。天文学者たちは、南米チリにあるヨーロッパ南天天文台の望遠鏡の1つを使って観測をし、このブラックホールは、私たちからわずか1千光年しかはなれていないという証拠（しょうこ）を見つけました。

このブラックホールがひそんでいる恒星系は、つまりブラックホールにとってのすみかは、地球からとても近くにあるので、南半球の暗い夜空ならば、その恒星は、地上からでもなんとか肉眼でも見ることもできます。

天文学者たちは、宇宙にはたぶん何億ものブラックホールがあるだろうと信じています。でもこれまでのところは、ごくわずかしかが発見されていません。ですから、科学者たちはこれから、近くにあるほかのブラックホールと恒星がおどる宇宙のワルツを探していくことでしょう。

画像提供：ESO / L.カルサダ

## COOL FACT

このブラックホール、わかっているなかでは一番近いものですが、私たちは何も心配する必要はありません。およそ1千光年、1京（けい）kmもはなれた場所にあるからです。これは人工物として世界最長である万里の長城の、5千億倍にもなる長さです。

